

研究レポート No.810 岩手県農業研究センター

利用再開した耕起困難採草地へは標準量の施肥を忘れずに！

【1 成果概要】

- (1) 耕起による草地更新を実施していない採草地では、無施肥の場合、夏季に牧草中放射性セシウム(RCs)濃度が上昇しますが、採草地用の県標準量の施肥(早春N:P:K=10:5:10 kg/10a、1、2番草刈取後N:P:K=5:2.5:5 kg/10a)を行うことにより、無施肥に比べ牧草中RCs濃度の上昇が抑制されます(図1、2)。
- (2) 採草地用の標準施肥量のカリを3倍量になるように塩化カリで増施した場合は、牧草中RCs濃度の上昇がさらに抑制されますが、牧草中カリウム含量が高くなり、テタニー比が上昇するため、標準施肥管理が望ましいでしょう。

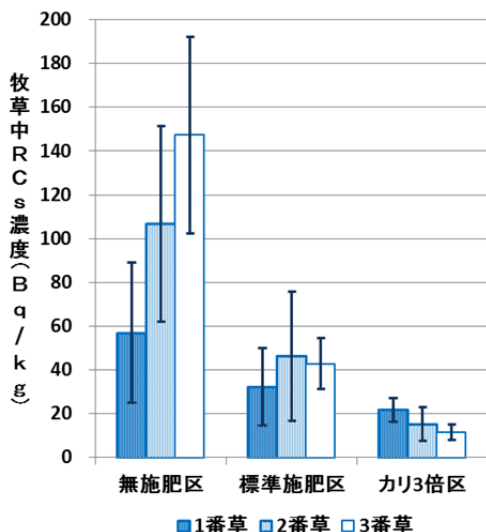


図1 牧草中RCs濃度

※1番草はH27年6月16日、2番草は8月7日、3番草は9月24日に調査を行った
 ※Ge半導体検出器(U8容器)にて測定した
 ※Cs-134、Cs-137の合計値(水分80%換算値)
 ※バーは標準偏差

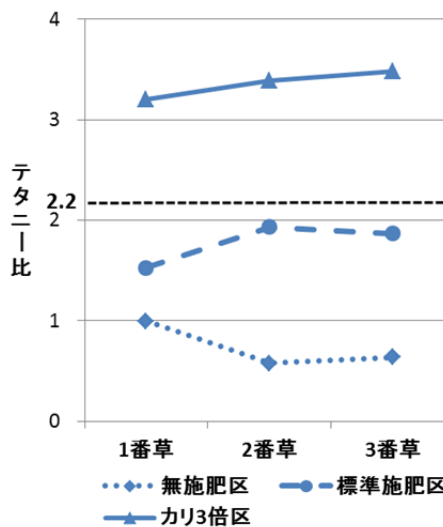


図2 牧草テタニー比

※K/(Ca+Mg)当量比
 ※1番草はH27年6月16日、2番草は8月7日、3番草は9月24日に調査を行った

表1 牧草中ミネラル含量 (乾物中%)

	無施肥区			標準施肥区			カリ3倍区			日本標準※ 飼料成分表
	6/16	8/7	9/24	6/16	8/7	9/24	6/16	8/7	9/24	
Ca	0.24	0.40	0.39	0.24	0.29	0.27	0.20	0.22	0.23	0.38
Mg	0.23	0.37	0.42	0.23	0.27	0.27	0.19	0.21	0.21	0.15
K	1.22	1.13	1.33	1.84	2.73	2.63	3.24	3.67	3.89	3.50

※オーチャードグラス生草(1番草・出穂期)の値

【2 留意事項】

- (1) 試験圃場は、盛岡市外山畜産研究室内未更新草地で実施しました。
- (2) 無施肥では2番草以降に牧草中RCs濃度が大きく上昇するため、必ず施肥を実施します。標準施肥でも1.5倍程度まで上昇する場合がありますので、国及び本県で定める飼料の暫定許容値(100Bq/Kg、搾乳牛50Bq/kg)を超えることが予想される場合は、標準施肥と併せ、カリの増施を検討してください。カリを増施した牧草を給与する場合は、牧草中K含量を確認し、適正に飼料設計を行い給与してください。また、窒素単肥施用は、無施肥よりもさらにRCs濃度が上昇する場合がありますので避けてください。
- (3) 試験圃場は、造成後10年以上経過しており、5cm程度のルートマット層が存在します。土壌は、厚層腐植質黒ボク土であり、試験前(H27年5月8日)の土壌中交換性カリ含量は、11.6 mg/100gでした。また、土壌中RCs濃度は0~5cm深が150.8 Bq/kg、5~15cm深が48.8 Bq/kg、ルートマット層は823.3 Bq/kgでした(H27年6月16日時点)。